

平成 26 年 7 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

消費税増税の影響は、「薄れてきた」との声もあるが、来客数や売上げが減少したという報告も引き続き寄せられている。

繊維工業と一般機器では、仕事や受注が順調に入っているが、窯業・土石製品と建設業では、災害復旧工事も落ち着いてきており、今後の受注量は減る見通しである。

県内企業は、依然として原材料や燃料費の高騰や納入単価の切り下げ等による収益の悪化が続いているが、総じて言えば中規模企業は今後の景況感に好転の期待を持っているが、小規模企業の景況感は悪化している状況で、景気の見方が分かれており、先行きは不透明感が続いている。

山口県の主要指標 DI 値（平成 26 年 7 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

- 業界の景況** （〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、好転： 5.0% 悪化： 40.0% DI 値： ▲35.0% ポイント
- 売上高** （〈 増加 〉 - 〈 減少 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、増加： 13.8% 減少： 36.3% DI 値： ▲22.5% ポイント
- 収益状況** （〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、好転： 6.3% 悪化： 35.0% DI 値： ▲28.7% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 26 年 7 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲57.1	▲25.0	▲33.3	▲100.0	▲16.7	11.1	▲50.0	▲27.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
▲40.0	▲44.4	▲75.0	▲50.0	0.0	▲57.1	▲40.4
						

全 体
▲35.0 

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	お菓子は暑くなると売れなくなるが、今年は梅雨明けまで気温が低かったので、消費、購買意欲が維持され、まあまあの売上であった。	パン・菓子製造業
	6月は+5.2%で前年同月をクリア、4～6月の累計も前年同期比+8.1%と好調に推移している。7月は7/24時点で前年同月比でイーブン。7/6開催の萩の瀬つきあじ祭りは、大雨の影響もあり▲20%と大幅に集客が減少した。ガソリンの高騰及び高速道路料金割引見直しの影響が、どのように影響しているのか、公開資料データがあれば検証してみたい。	水産食料品製造業 萩市
	さまざまな資材、原料の価格が上がっている。中元も景気回復の影響を受けているとは言えない。やはり地方の景気回復はまだ先。	水産食料品製造業 下関市
	昨今の米あまり基調に伴い、今週の米の取引価格について、大幅な下落が予想されており、20%程度の価格の下落が予想される。	精穀・製粉業
繊維工業	主力販売取引先のキャンペーン等、懸命の販促活動もなかなか浸透せず、店頭は厳しい状況。組合員企業には以前にも増して経営の厳しいところがあり、資金繰りに苦慮している。実習生受入れは、中国人の募集が非常に困難になってきている。中国国内の賃金も上がり、一人っ子政策で若い世代が国外に出たがらない。実習生の年齢も高齢化しており、今後はベトナムにシフトしなければ集まらなくなった。縫製業から業種転換の必要も視野に入れて、新しい業種を模索をする企業も出てきた。	下着類製造業
	消費税転嫁についてのトラブルはない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	順調に仕事が入っており、8月も順調な模様。国内工場が減少して来ているので、仕事が回って来るものと思われる。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	依然として、木材価格は下降気味であり、新設住宅着工戸数も減少している。	製材業・木製品製造業 山口市
	前年同月と同水準の売上高に落ち込んで来ている。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	消費税増税の影響で4月上旬はかなり受注が減少したが、経常利益ベースで収支トントンに抑えられた組合員もあった。	印刷 下関市
	例年学校が終業する20日頃から受注が動かなくなるが、今年は1週間ほど早く受注が動かなくなった。	印刷 山口市

窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材104%、路盤材75%、再生材113%、全体で98%の出荷量となっている。災害復旧工事も落ち着いてきており、前年度に比べると出荷量もボチボチと減ってきている。今後、中部地区では、入札件数も年々減っており、出荷量は低迷する見込み。	砕石製造業
	出荷量は、前月比96%、前年同月比115%。(一部地区を除き前年度比が増加したことによる。)現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。砂、砂利、セメントなど原材料価格の値上げ圧力が高まりつつある。	生コンクリート製造業
一般機器	自動車及び大型構造物関連は好調。プラント輸出関連は見積段階までは参加できるが、価格競争で中国に負けるという状況が続いている。組合員で差があるものの、全体ではプラスの現象であると窺がえる。	一般機械器具製造業 防府市
	自動車、機械製造関係企業の設備の稼働率は上昇傾向にある。人手不足から組合員の外国人技能実習生受入れを増やすとともに、新規受入れの相談があるが、実習生の場合、入国まで6ヶ月位必要となるので、その間の臨時職員の紹介を依頼されることも多い。ハローワークに登録してもなかなか確保できないもようである。また、企業の海外展開に伴う人材確保として、外国人留学生の紹介の依頼もある。	一般機械器具製造業 宇部市
	売上高が微増している。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型製造関係の設備操業度は6月と比べ変化は無い。受注は、日本メーカーの海外現地生産用金型の案件が多くなっている。自動車業界の大手は、業績も良さそうだが、中小企業にまでは届いていない様にしか思えない。相変わらず、低価格競争、短納期、高品質は当たり前という要求の現実を突きつけられると、仕事の確保がままならないが、9月、10月以降の受注活動を強力に進めているところ。成形製品関係の設備操業度は微増傾向にあるが、新規案件の製品が少しずつ立ち上がり始め、これからの受注増に期待するところである。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	どの組合員も人材不足に苦慮している。	船舶製造・修理業
	車両部門の作業量は上向きの傾向であるが、納入単価の値下げ要求は厳しく、苦しい経営が続いている。精密加工部門の作業量の落ち込みが顕著になって来ており、当分の間、低迷期が続く見込み。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	消費税増税の影響も薄れてきた。雇用人員に変化は無いが、新規の正規雇用は見受けられず、アルバイトやパートタイマーがほとんどのようである。中国	各種商品小売業 防府市

	人実習生を5名～10名程度採用しているところもある。	
	前年同時期も燃料価格の上昇があったが、今年は消費税増税も加わったので、夏物商品の消費に影響が出そうである。	各種商品小売業 山口市
	各業種とも売上げの減少、利益の減少の苦しい状況が続いており、一般経費及び固定経費の削減に努めている。公共工事はあるが県外業者の参入が多く、地元建設業関係卸売業の参入は難しい状況が続いている。	各種商品小売業 下関市
	消費の伸び悩み、特に贈答品が不振で、売上が減少している。又、近年の海水温の上昇でイリコ、チリメン等の海産物が減少しており、在庫数量が減少している。	乾物卸売業
	売上は減っていないが、利益が薄いので、景気は良く無い。昨年はウナギが高騰したが、今年はシラスウナギが豊漁なので安く、来年も安いと思われる。	生鮮・魚介卸売業
小売業	ボーナスシーズンの売上の回復を期待したが、盛上りに欠けている状況。各メーカーも売上コンテストを実施し販売促進をしているが、売上の良い店と悪い店との差が大きい模様。組合でも組合専用商品「キリョウ」の販売促進計画を立てている。まずは、店頭売り場作りからということで、売り場作りのコンテストの開催を予定している。	化粧品小売業
	組合員事業所については6月の状況より悪化している。景気も腰折れ感があり、消費税10%への移行は慎重であって欲しいとの意見が強い。また、食料品店においては安心・安全の食材を消費者が求めてきており、価格競争だけでない購買行動が生まれている。大型店に対抗するためにも、組合員事業所は、国内産を重視した品揃えが期待される。地区の中小企業者の動向は、求人倍率が上昇しているが、雇用のミスマッチがある。特に建設・警備・介護・飲食業で人手不足が続いており、景気の足を引っ張っている。また、ここにきて天候不順となり、海水浴場や観光地の来場者数にも影響が出ている。	各種商品小売業 岩国市
	例年通り夏祭りが開催され、銀座商店街では「おばけ屋敷」も開催された。親子連れが大勢並び、賑わいを見せていた。	各種商品小売業 周南市
	消費税増税の影響は高額品を除き、落ち着いている。女性向けの美容、衣料等は売上が増加している。	各種商品小売業 山口市
	猛暑が続いて、ショッピングセンターの売上、客数共に前年を下回り厳しい状況が続いている。酒のディスカウント店が今月6日付にて退店し、繁忙期の退店が大きく影響している。	各種商品小売業 長門市

商店街	7月は夏祭りなどのイベントに期待したが、厳しい状況。駐車場の利用は増加しているが、組合員の店舗の売上には繋がっていない模様。8月の帰省時期に期待したい。	山口市
	陶器店では、小物のみ購入が多く、消費税5%時の価格で販売している為、利益も減少している。野菜等の販売店では、消費税転嫁と品薄感から野菜が値上がり、年配の購入が減り、売上が減少している中で、コストはアップしている。在庫は減らしにくく、廃棄処分量が増加しており、収益が悪くなっている。	萩市
サービス業	7月に入ってから、来客数が減ってきた模様。6月末の企業収入の減少が響いてきていると思われる。いよいよ、消費税増税の影響が如実に表れ出したのかも知れない。	美容業
	相変わらず、業界の状況は悪いと思われる。何でも『安さが一番』という社会の価値観を変えなければならない。	理容業
	消費税増税前の駆け込み需要により3月までは新車販売が好調であったが、4月以降は車検台数が大幅に減少していた。6月は対前年同月比で、ほぼ同数まで回復している。消費税増税の影響は、表面的には少なくなってきたように思われる。	自動車整備業
	売上高が若干減少しているが、可もなく不可もなく、推移している。	
	フィットネスジムの65歳以上の男性会員が増加傾向にある。スイミングでは、梅雨明けが遅いためか夏の集客が少し悪い。	スポーツ・健康教授業
	組合員の施設では、宿泊人員・売上ともほぼ前年並み。施設によって、好不調が分かれている。	旅館業 山口市
	宴会等も動きが鈍く、同窓会も前年を割っている状況で、中旬までの集客が悪かった。お土産などの売り上げは好調に推移しており、消費意欲が上がっている感じである。夏休みに入り観光客が動き出し、下旬の宿泊客数は伸びたが、直前の予約が多い。前年は、島根県の出雲効果で集客が悪かったのが、今年は少しは良くなることを期待していたが、芳しくなかった。安全意識が高くなり、例年よりも早い時期の台風の発生で、状況が一変する。ビジネス系もイベント等の宿泊を受けている施設は、稼働率が良かったが、イベント等に関連する予約のない施設は苦戦をしていた。8月に期待をしている。	旅館業 下関市
	飲食等の売上は前年同月比で悪化。消費税増税及び水道光熱費等の経費負担が増加した。入浴者数は、前年同月比で若干減少したが、売上高は単価の上昇	旅館業 長門市

	により変わらず。	
	第2四半期は、資金需要が鈍く、公庫を中心とした設備、運転資金の借入がともに伸び悩んでいる。飲食業における営業状態が相変わらず、質・量ともに、好転の兆しが見えないことに起因している。季節の変化に伴う需要についても、目に見えて良い状況にない。地域的には、瀬戸内海側の東部が比較的堅調であるが、県内の景況を押し上げる程ではない。	飲食業
	例年、梅雨時期は悪天候の影響もあって、来客数が減少する月である。雨の日セールや、雨の日ポイントなど各店舗で工夫し販促もしているが、例年よりも反応が薄く、売上も一部地域では激減の報告である。やはり消費税増税の影響ではないだろうか。宇部地区では、中堅クラス競合店の廃業により、組合員各店で売上増との報告がある。組合員店では、技術重視のサービスを提供しているお店も多く、廃業した競合店と技術面、ターゲット層が同じであったことから、売上増に繋がっていると思われる。	普通洗濯業
建設業	中電への工事申請は6月144件（当支部分120件）、前年同月155件（同124件）。太陽光発電への申請17件、オール電化申請30件（前年は太陽光19件、オール電化50件）。LED街路灯への切替・新設申請は32件（前年43件）であった。	電気工事業
	採算は好転しているが、長い不況で傷んだ財務の補てんのため、給与は小幅な上昇に止まっている。	左官業
	平成26年度公共工事の発注が遅れている。資金繰りに困っている組合員がいる。建築工事が少し好転しているようだが、土木工事も少し上向きの模様。少額の民間工事も少しあるが、活性化の兆しには思えない。	土木工事業 柳井市
	最近の情報連絡員報告には建設業は☀マークがついてとても好景気のようなのですが、何故か熊毛地域は☔マーク。	土木工事業 周南市
	生コン購入量が、昨年と比べてとても少ない状況。	土木工事業 下松市
	7月の受注高は、対前年同月比38%。災害復旧分の発注は、出尽くし、土木一般の発注は殆どない状況。今年度の累計では、対前年比777%。	土木工事業 萩市
	前年同月比では好転をしており、前月比では変わりがない。	管工事業
	輸送関係は、7月も6月と同じ傾向で、前年同月比約20%弱の減少となっている。長距離ドライバーが減少しており、その収益の減少で、事業者にとって影響が大である。消費税は円滑に収受しているが、	一般貨物自動車運送業 下松市

<p>輸送賃が据え置きのため、中小零細運送業にとっては死活問題で、従業員へのボーナスの支給もしかねる状況にあり、働く意欲も下がるとの見方にも一理ある状況。燃料は2.3円の値上げ。</p>	
<p>先月に続き7月の売上は、昨年水準を下回り、前年同月比▲10%程度。大手製造業者の国内生産合理化に加え、生産拠点の海外移転が少なからずの後退要因となっている。燃料費も上昇基調が続きコスト高は免れない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
<p>輸送荷物の減少が甚だしく、トラックが余る状態が続いている。車両の処分も視野に入れている。荷物保管の方は、倉庫は埋まっているものの荷物の出し入れが無く、保管料はある程度安定しているが、入出庫料については厳しい状態が続いている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
<p>消費税増税後、燃料の値上がりは急で、軽油@138円/1ℓ、ガソリン@169円/1ℓとなり、物価も値上がり、経営は大困難となっている。景気も減退傾向で、輸送貨物も少なくなり、運賃も下がり、心痛の極みである。大阪よりの帰路荷物は競争が激しく、値下がり原因となっている。ETCの利用も減って来ているが、燃料の共同購入を止め組合員の自由にし、経費削減の効果は出ている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年同月比▲3.0%（平成26年6月1日～平成26年7月20日分）。6月1日～30日分は▲2.4%、7月1日～20日分は▲3.9%となった。5月以降少し落ち込みが少なくなったように思えたが、まだまだ減少傾向が続いている。防府地区は前年より若干増加、周南が減少、光市地区と下松地区は周南よりも減少している。7月のチケット1枚当たりの単価は前年同月比▲1.1%（消費税等込み）となっており、遠距離利用が大幅に減少している模様。主要燃料であるLPGは、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、原油と異なり、ブタン、プロパンのCPは前月分よりもさらに下降。円高もありタクシー会社の購入単価は先月よりさらに1%さがったが、前年7月分に比べ+4%と高値。収入が減少（特に消費税増税後は大幅に減少）、車両等の諸費用が増加する状況に、タクシー事業者も収益状況は苦しくなる一方。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
<p>相変わらず、低位のまま「不変」である。取扱高は、現在のところ、前年同月比で、若干の減という感じ。</p>	<p>港湾運送業</p>